

緊急地震速報の発表状況等について

気象庁 地震火山部 管理課 地震津波防災対策室 菅沼一成

1. 発表概要

平成 19 年 10 月の緊急地震速報の一般提供開始から 10 年を迎えた。この 10 年余りの間に発表された緊急地震速報の発表状況、予報の的中率及び警報の見逃し/空振り率等について、特に最近 1 年間の見逃し等については、いくつかの事例をいくつか挙げて紹介する。また、気象庁における緊急地震速報の技術的改善の予定等、最近の動向についても紹介する。

2. 緊急地震速報の発表状況

緊急地震速報は平成 29 年 12 月までに、警報は 190 回、予報は 11,901 回発表されており、日本全国のどの都道府県でも 3 回以上の警報が発表される状況となった。緊急地震速報の一般提供開始から 10 年を経て、緊急地震速報は情報として社会に根付いてきたと思われる。

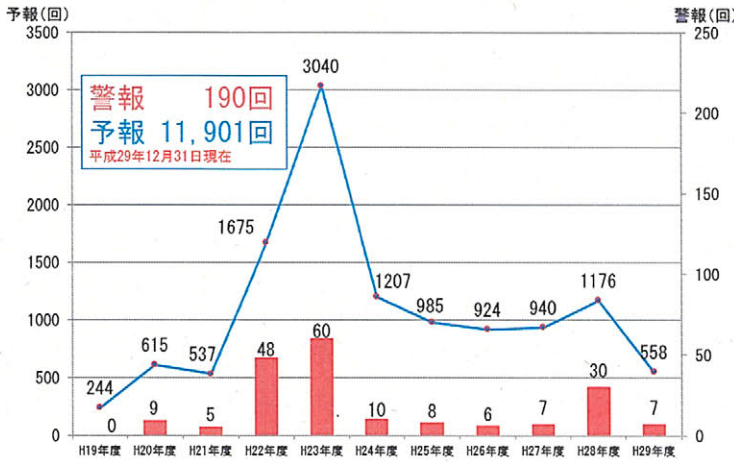


図 1. 緊急地震速報(予報・警報)の発表回数

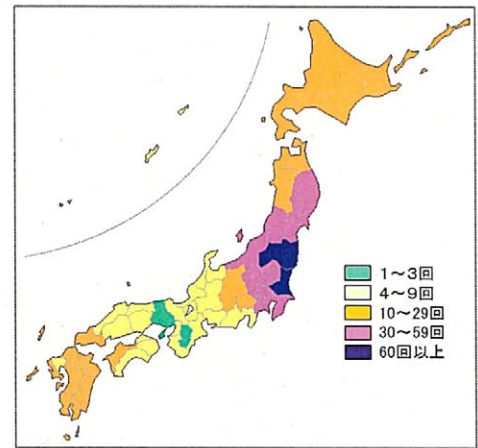


図 2. 緊急地震速報(警報)の都道府県別発表状況

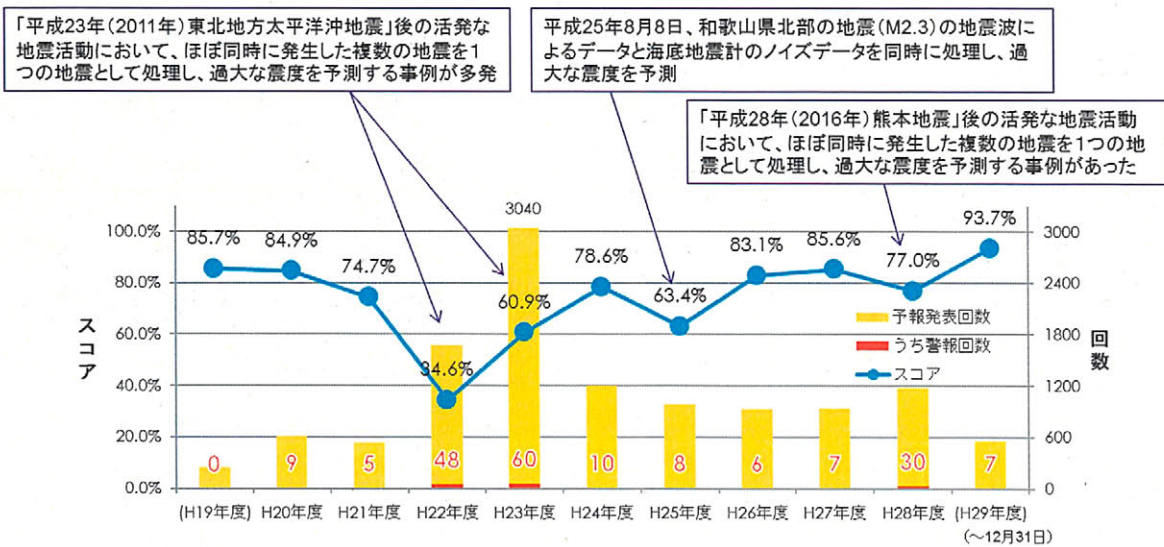


図 3. 震度 4 以上の観測または予測した地震について、その地域予想震度が震度階級で地域観測最大震度の ±1 階級以内であったものを適切な予測であったとした場合の的中率スコア。概ね 80% 前後で推移。

3. 緊急地震速報の技術的改善～PLUM法の導入～

気象庁では、現在、PLUM法を導入するためのシステム改修を進めており、部外機関向けには12月から試験配信を実施しているところで、平成30年3月下旬に運用を開始する予定である。また、地震動予報業務許可について、気象業務法施行規則をはじめ各種規則の改正を予定している。

なお、PLUM法を導入した「新形式電文」の配信に加え、各事業者における緊急地震速報の安定的な伝達の確保及びPLUM法の円滑な導入のための当面の移行措置として、現行電文形式を変更せずにPLUM法の結果を反映した「移行措置電文」を並行配信する。

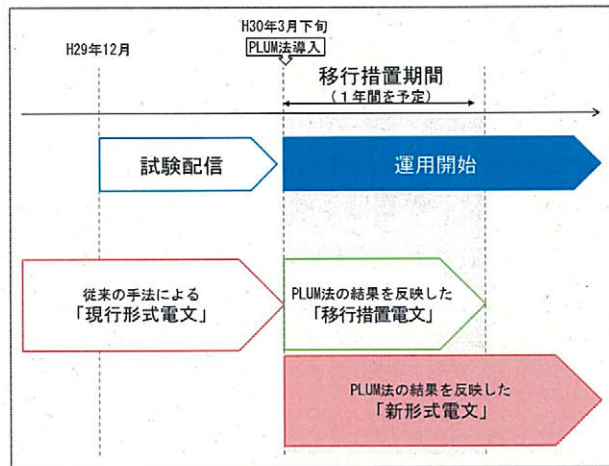


図4. 緊急地震速報電文の移行措置

4. 長周期地震動

気象庁では、「長周期地震動に関する情報検討会」で取りまとめられた報告を受け、今後、現行の緊急地震速報（警報）を発表する基準に長周期地震動階級の予測値を追加して長周期地震動階級3以上が予測される場合にも緊急地震速報（警報）を発表すること、また、長周期地震動の予報については、緊急地震速報（予報）の内容に長周期地震動の予測結果を加えて発表することを考えている。

5. その他（宣伝）

緊急地震速報 防災講演会

「緊急地震速報10周年～緊急地震速報のこれから～」

日時：平成30年2月14日（水） 午後1時30分～4時

場所：大阪市立阿倍野区民センター 大ホール

主催：大阪管区气象台、（一財）気象業務支援センター、緊急地震速報利用者協議会

緊急地震速報 防災講演会 in 大阪

緊急地震速報10周年

～緊急地震速報のこれから～

日時 平成30年 2月14日(水)
13:30～16:00 (開場13:00)

会場 阿倍野区民センター 2階大ホール
大阪市阿倍野区阿倍野郡4-19-118
地下鉄谷町線「阿倍野」駅④号出口から西へ50m

主催 大阪管区气象台、（一財）気象業務支援センター、緊急地震速報利用者協議会
近畿地方整備局、近畿運輸局、大阪府、大阪市、NHK大阪放送局、（一社）日本新聞協会、（一社）日本民間放送連盟

会場600名
無料
要申込（先着順）

プログラム

- 13:30 開演・主催者挨拶
- 13:35 講演1 『緊急地震速報10年を迎えて
～緊急地震速報が可能にしたこと、今後可能になること～』
土井 忍治 大阪管区气象台長
- 14:05 講演2 『報道から見た緊急地震速報への期待』
大牟田 智佐子 毎日放送 報道局
- (休憩)
- 14:55 講演3 『緊急地震速報をより効果的に活用するために』
木村 玲歌 兵庫医科大学 准教授
- 15:25 講演4 『長周期地震動に対する自動・共動による超高層建物の備え』
久田 嘉章 工学院大学 教授

会場内ブース展示 緊急地震速報利用者協議会

お問い合わせ 気象庁地震火山部地震津波防災対策室 電話：03-3212-8341（内線4666）